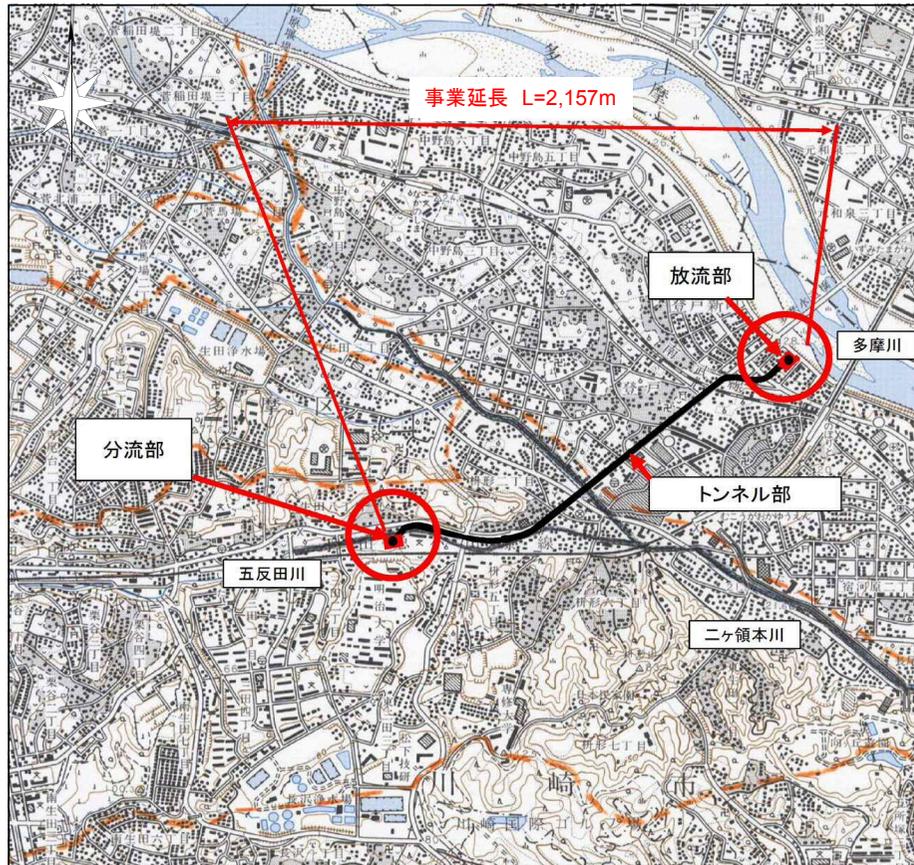


# 1 五反田川放水路整備事業の取組みについて

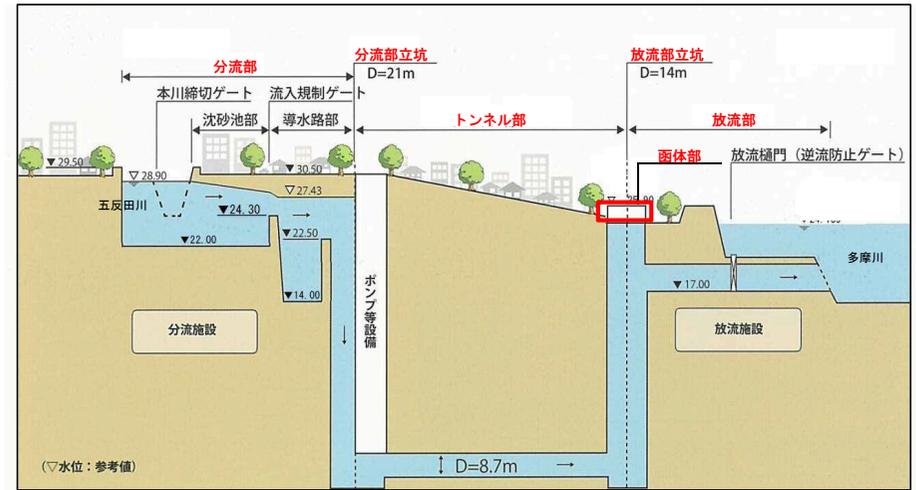
## 【事業概要】

- 目的：五反田川下流部とニヶ領本川との合流部では度重なる水害を繰り返してきました。このため、五反田川の洪水全量を地下トンネルに流入させ、直接多摩川へ放流させることにより洪水被害を防ぐため
- 効果：本事業完了により、放水路下流域の五反田川及びニヶ領本川は、現況断面で時間雨量90mm対応となります。また、面積341.2ha、家屋数7089戸の浸水想定被害が解消されます。
- 事業期間：平成4年度～平成32年度
- 施設内容：延長 2,157m（トンネル部・分流部・放流部）

## 【位置図】



## 【縦断図】



## 【事業経過及び今後の予定】

- 平成4年度：五反田川放水路整備事業着手
- 平成12年度：分流部立坑築造工事完了
- 平成20年度：用地、区分地上権取得完了
- 平成21年度：トンネル部築造工事及び放流部立坑築造工事着手
- 平成24年度：放流部立坑築造工事完了
- 平成26年度：トンネル部築造工事完了(※1)  
函体部築造工事着手(平成26～27年度)
- 平成27年度：放流部施設築造工事着手予定(平成27～30年度)(※2)  
分流部施設築造工事着手予定(平成27～32年度)
- 平成31年度：供用開始予定
- 平成32年度：事業完了予定

※1 トンネル部坑内



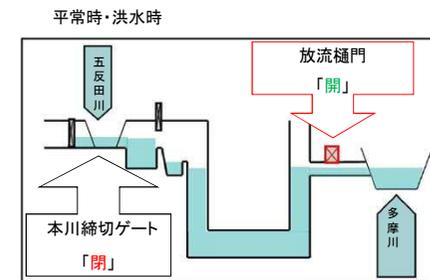
※2 放流部イメージ図



## 2 五反田川放水路整備事業の計画変更について

### これまでの計画【常時運用】

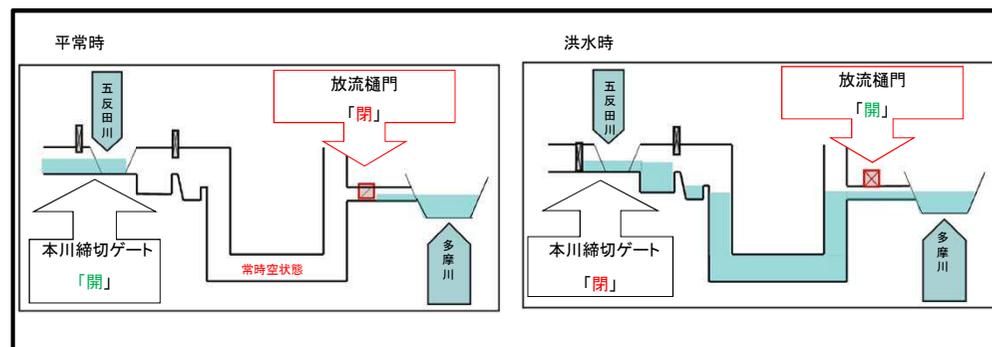
- 五反田川は高低差の著しい河川で、洪水時に下流までの到達時間が短いことから、放水路の運用については水門操作の不要な「常時運用」とする計画としておりました。
- 平常時においては、五反田川から多摩川まで到達するのに約1週間程度かかり、水中の酸素濃度が低下することで水質が悪化し、放流先の多摩川の生態系に悪影響を与えるという課題があり、国土交通省との協議の中でも、**多摩川への放流にあたって環境へ配慮するような条件**が出されていました。
- 平成27年度からの放流部施設の工事着手に向けて、詳細な設計や国土交通省との協議を行い、「常時運用」の計画を変更することしました。



### 今回の変更点【洪水時運用】

#### ●「洪水時に放流する運用」へ決定しました。

- ・洪水時に放水路へ取込んだ水が短時間で多摩川へ放流されるため、多摩川の環境等には影響がなく、適切な運用を行うことが可能となります。
- ・放水路内に五反田川の水を取り込む際のゲート操作の確実性や安全性の確保を図る観点から、より適切かつ効果的な運用を行うため「自動制御システム」を導入いたします。
- ・運用方法の変更に伴い、設備等の見直しが必要となります。



### 【事業期間】

- 事業期間を**2年間延伸**し、事業完了時期を平成30年度から平成32年度といたします。ただし、従来通り**平成31年度から供用を開始**いたします。  
※事業効果の早期発現を目指し、治水安全度の大幅な向上や地域住民から放水路完成の期待も高まっております。

項目	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
放流部施設		■	■	■	■		
トンネル	■						
分流部施設		■	■	■	■	■	■

→ 供用開始